

授業科目 日常生活活動学

【担当教員名】 貝淵正人 大山峰生	対象学年	2	対象学科	作業
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【<概要>又は<一般目標: G I O>】

人間の日常生活の基本として遂行される食事、排泄、整容、更衣、移動などの動作遂行に必要な条件を理解し、日常生活活動（ADL）および生活関連活動（APDL）に関する基礎的・応用的知識について修得する。

【<学習目標>又は<行動目標: S B O>】

1. ADLの概念について説明できる。
2. ADL評価の目的を明示し、各評価の特徴を説明することができる。
3. 基本動作の特徴を分析することができる。
4. ADL評価に基づきADLプログラムが立案できる。
5. 代表的疾患に特有なADL評価を説明でき、プログラムを立案施行できる。
6. 福祉用具の役割についての重要性を説明でき、福祉用具を適切に選択することができる
7. 障害者に対する環境整備の方法について説明することができる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	ADLの基本的考え方、領域と分類、ADL支援システム	1	講義 貝淵
2	ADL評価方法	2	講義 濱口
3	動作分析の基礎知識	3	講義 貝淵
4	福祉用具の基礎知識	6	講義 貝淵
5	ADL評価に基づくプログラム立案	4	講義 貝淵
6	起居動作の基本的見方	3	講義 貝淵
7	評価の特徴とADLプログラム立案（片麻痺）1	5	講義 貝淵
8	評価の特徴とADLプログラム立案（片麻痺）2	5	講義 貝淵
9	評価の特徴とADLプログラム立案（脊髄損傷）1	5	講義 濱口
10	評価の特徴とADLプログラム立案（脊髄損傷）2	5	講義 濱口
11	評価の特徴とADLプログラム立案（RA）1	5	講義 大山
12	評価の特徴とADLプログラム立案（その他疾患）	5	講義 貝淵
13	福祉用具の具体的応用立案	6	講義 貝淵
14	住環境における調整・改良	7	講義 貝淵

【使用図書】	【書名】	【著者名】	【発行所】	【発行年・価格・その他】
教科書 (必ず購入する書籍)	日常生活活動（動作） ADLとその周辺	土屋弘吉、他 伊藤利之、鎌倉距子	日本医薬出版社 医学書院	2002年 6650円 1999年 5900円
参考書				
その他の資料	プリント			

【評価方法】 出席、期末試験	【履修上の留意点】
-------------------	-----------